



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

10. 市場で有利な8月下旬～9月下旬出荷の「シャインマスカット」の5kgコンテナの出荷規格

[要約]

簡易被覆栽培における8月下旬～9月下旬出荷の「シャインマスカット」の東京市場での評価は、コンテナ出荷では5kg7房詰めが最も高く、10a 当たりの推定粗収入も最も高いため、5kg7房詰めを中心とした大きさの房作りが望ましい。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「シャインマスカット」の生産現場では、見栄えを重視した大房ねらいの房作りが散見される。しかし、大房であるほど市場での評価が高いとは限らず、糖度上昇の遅れや着果過多による樹への負担の増加などの弊害を招きかねない。そこで、8月下旬～9月下旬に簡易被覆栽培の「シャインマスカット」を東京市場に出荷して果房重や房形などによる等階級の違いと市場評価との関係を明らかにし、経済性を高めるための最適な房作りについて検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 5kg コンテナの単価は、8月下旬から9月下旬にかけては、変動幅が比較的小さく推移する（図1）。
2. 5kg コンテナの規格別単価は、7房詰めが最も高い（図2）。
3. 5kg コンテナ出荷における10a 当たり粗収入は、7房詰めの715～835gを生産すると最も多いと推定される（図3）

以上の結果、東京市場では、5kg コンテナの単価は調査期間を通して安定傾向があり、その中でも、7房詰めの単価が最も高い。10a 当たり推定粗収入も7房詰めが最も高いことから、5kg7房詰めの規格である果房重715～835gを目標とした房作りが望ましい。

[成果の活用面・留意点]

1. 収穫全果房の90%（3,623房）を調査対象とし、このうち56%に相当する青秀以上を、8月22日から9月26日にかけて3～4日間隔で合計11回（1房396箱、5kgコンテナ209箱）東京青果に出荷して調査した結果である。
2. 5kgコンテナの各規格の果房重は、6房、7房、8房及び9房の果房重がそれぞれ835g～、715～835g、625～715g及び556～625gである。
3. 1房箱出荷規格は、果房重が721g以上（3%の入れ目を含む）で5kg7房詰めの規格と同サイズであり、1kg当たり単価は5kgコンテナに比べておおむね4～9割高い。
4. 指導基準に則した花穂及び果房管理を行う。
5. 試験実施年の中秋節は9月22日～24日であった。



[具体的データ]

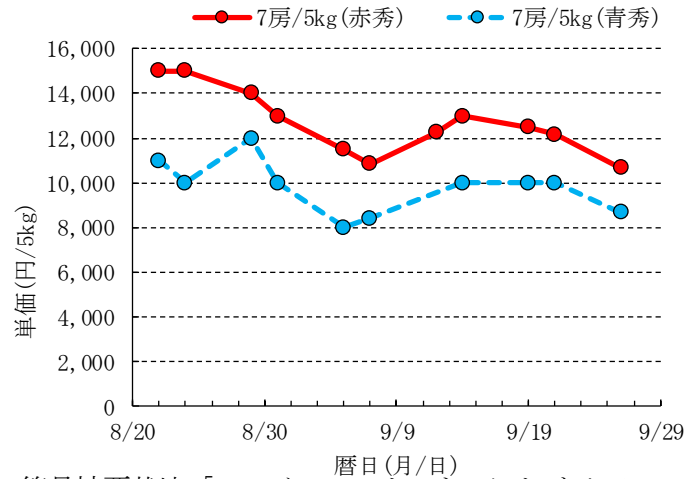


図1 簡易被覆栽培「シャインマスカット」における 5kg コンテナ出荷果実の単価の推移 (2018年8月24日～9月26日、東京市場)

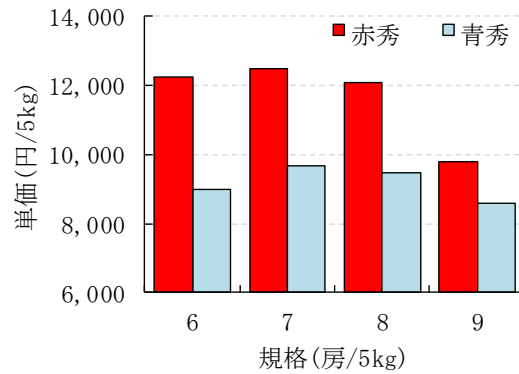


図2 簡易被覆栽培「シャインマスカット」の 5kg コンテナ出荷における規格別単価 (2018年8月24日～9月26日、東京市場)

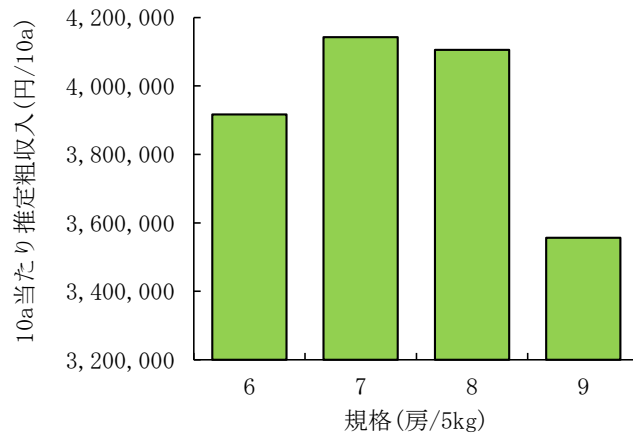


図3 簡易被覆栽培「シャインマスカット」の 5kg コンテナ出荷における 10a 当たり推定粗収入²

²10a 当たりの収量が 2.3 t で、5kg コンテナ 6 房、7 房、8 房及び 9 房の果房重がそれぞれ 920g、780g、670g 及び 590g とし、赤秀が 4 割、青秀が 2 割、優が 3 割、良が 1 割と仮定して算出。優及び良の単価は青秀の単価に対してそれぞれ 80% 及び 60% と仮定

[その他]

研究課題名：加温栽培「シャインマスカット」の高糖度・高品質安定生産技術の確立
 予算区分：県単

研究期間：2016～2020 年度

研究担当者：安井淑彦、中島譲、久保田朗晴、藤原聡

関連情報等：1) [平成 29 年度試験研究主要成果、17-18](#)